

食文化とビジネス1

国際的な食ビジネスの発展には、対象となる人々の食文化を含め、複合的な観点から食を捉えることが不可欠である。ローカルなあるいは民族的な価値観や食行動が食ビジネスに与える影響もあれば、逆に食ビジネスの発展が人々の食行動や価値観の変容など食文化に対して与える影響もある。また世界各地の「伝統的」食文化の要素が、新たな食ビジネスのシーズにつながることもある。

第二期食文化共同研究では、「食文化とビジネス」を共通テーマとして、現代世界の複雑な食文化の諸相を、飲食に関わるビジネスの事例を通して、文化人類学的な食文化研究というアプローチから分析していく。

開催日時

2015年10月11日（日）13:30~17:45（開場13:05）

会場

〒108-0023東京都港区芝浦3-3-6
キャンパス・イノベーションセンター2階 多目的室4
JR田町駅 芝浦口をでて右手すぐ。車でのご来場はご遠慮ください。

受講料

無料（要申し込み）

申込方法

ぐるなび寄附講座のウェブサイトからお申し込みください。

<http://www.mot.titech.ac.jp/food//>

定員: 30名

申込締切: 2015年10月5日

* 頂きました個人情報は寄附講座イベントの参加者管理の目的以外には使用致しません。

* 事前申し込みをしていない場合でも、当日、会場に余裕があればご参加いただけます。

<問い合わせ先>

東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科

「ぐるなび」食の未来創成寄附講座（担当：瀬下・阿良田）

TEL：03-3454-8705/FAX：03-3454-8973

メール：gnavi.titech.kifu@gmail.com

主催：東京工業大学「ぐるなび」食の未来創成寄附講座 食文化共同研究会

第一部 喫茶文化とビジネス 13:30-16:15

第1講義 櫻田涼子氏 育英短期大学 現代コミュニケーション学科 准教授

「マレー半島における華人系喫茶文化コピティアムの混淆性とその展開」

マレー半島(シンガポール・マレーシア)には「コピティアム」と呼ばれる喫茶文化／喫茶店が遍在し、廉価なコーヒーと軽食を楽しむ店が日常的場所として機能している。現地では中国海南島出身者が持ち込んだ食文化とされるが、実際には後発移民として半島に移住した海南人の社会経済的立場によって生じた英国植民地政府との関係など多様な経路をたどり発達したものである。現在では、グローバル展開する企業もあり、マレー半島を代表するフードスケープとなったこのフードビジネスについて考察する。

第2講義 生駒 美樹氏 東京外国語大学 博士後期課程

「ミャンマー茶産業の課題と取り組みーシャン州ナムサン郡を事例として」

ミャンマーでは、茶を飲み物としてだけでなく食べ物として用いる独特な喫茶文化が発達している。特に、食用茶は冠婚葬祭や儀礼、来客の際に供されるなどミャンマー伝統文化に欠かせない食品の一つである。しかし、近年ミャンマーの茶産業は、中国からの安価な発酵茶の流入や、労働者不足などの影響により不振に陥っている。本講義では、国内最大の茶産地シャン州ナムサン郡と、茶流通の中心地マンダレー市を事例とし、生産者や流通業者による茶業立て直しの取り組みと課題を紹介する。

コメンテーター 三浦哲也 育英短期大学 准教授

第二部 在来種とブランド 16:30-17:45

第3講義 小松 かおり氏 静岡大学 学術院人文社会科学領域 教授

「在来地域ブランドの価値と問題点ー沖縄の在来豚アグーの事例からー」

在来の作物や品種は、その独自性から、農産物の地域ブランドを生み出す資源として注目されている。しかし在来種は、在来であるがゆえに、商品化が難しい面を持っている。標準化の難しさ、「ホンモノ」の確定の難しさ、ブランド商標の権利の所在を確定する難しさなどである。沖縄の在来豚「アグー」を対象に、在来家畜のブランド化について考える。

コメンテーター：未定

17:50～19:00 講義終了後そのまま会場で簡単な懇親会を行います。
会費500円を当日お支払いください。